

マスコミ各位

令和5年9月20日（水）

沖縄県保健医療部ワクチン・検査推進課 感染症予防班

担当：加藤、嘉数

電話：098-866-2013

エムポックス患者の発生について（県内3例目）

県内の医療機関から管轄保健所にエムポックスの疑いがある患者の報告があり、県衛生環境研究所にて検査した結果、エムポックスの陽性が判明し、9月15日に医療機関から管轄保健所に発生届がありました。本事例は県内で3例目の発生となります。なお、エムポックスについては、2023年5月26日に、感染症法上の名称がサル痘から変更になっています。

報道機関各位におかれましては、ご本人やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮下さい。また、医療機関への取材や直接のお問い合わせはお控え下さい。

1 患者情報

年 代：40代

性 別：男性

居住自治体：沖縄県

症 状：発疹、皮膚粘膜病変、発熱

届 出 日：2023年9月15日

海外渡航歴：なし

患者の状況：状態は安定しています

2 エムポックスについて

エムポックスは、エムポックスウイルス感染により発熱、頭痛、リンパ節腫脹等をおこす急性発疹性疾患です。感染症法では4類感染症に分類されています。

1970年にヒトでの感染が発見されて以来、中央アフリカから西アフリカにかけて流行してきました。2022年5月以降、欧州や北米等で報告が相次いでいましたが、2023年は全体の症例の報告数は減少傾向にあります。

国内では、感染症発生動向調査において、集計が開始された2003年以降、これまで患者の報告はありませんでしたが、2022年7月25日に国内1例目となるエムポックス患者の報告がありました。その後散発的に発生が報告されていましたが、2023年に入り患者の報告数が増加しており、2023年9月15日時点で198例の患者等が報告されています。

沖縄県では、2023年4月7日に1例目、4月12日に2例目となる患者の報告がありました。

〈症状〉

潜伏期間は通常6～13日（最大5～21日）で、発熱、頭痛、リンパ節腫脹、発熱の1～3日後に発疹がみられます。

多くの場合自然軽快しますが、小児や患者の健康状態、合併症などにより重症化することがあります。

〈感染経路〉

主に感染しているヒトの皮膚の病変・体液・血液との接触（性的接触含む）により感染します。また、患者との接近した対面での飛沫への長時間の曝露により感染する可能性があります。

〈感染に不安のある方へ〉

過剰に心配することなく、発熱、発疹等、体調に異常がある場合には最寄りの保健所に相談するとともに、手指消毒等の基本的な感染対策を行って下さい。

医療機関を受診する際は、マスクの着用や発疹部位を衣服やガーゼで覆うなどの対策をして下さい。また、公共交通機関は避け、自家用車など他人との接触をなるべく避けられる交通手段を用いるようにして下さい。

3 参考

● 沖縄県ワクチン・検査推進課「エムボックス」

<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/vaccine/yobou/sarutou.html>

● 沖縄県感染症情報センター「感染症発生動向調査 週報・月報 ～速報～」

疾病分類別報告数に、全国および沖縄県の報告数を掲載しています。

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html#syugepou>

● 厚生労働省「エムボックスについて」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/monkeypox_00001.html

● 国立感染症研究所「エムボックスとは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/408-monkeypox-intro.html>